

令和4年6月3日

東部農林水産振興センター出雲事務所農業部

標 題

I C T 勉強会を開催

～ほ場整備に併せたスマート農業を目指して～

(ダイジェスト)

宍道湖西岸の国営ほ場整備では、(経営面積) 456haが整備される予定となっています。農地の大区画化に併せて、I C T (情報通信技術) による効率的な農作業が必要になっていくことから、関係機関に呼びかけ、I C T 勉強会を開催しました。

出雲市の宍道湖西岸地区では、国営緊急農地再編整備事業が採択され、平成30年度より工事が開始されています。

本事業によりほ場が大区画化されるなかで、同地区内では、直進アシスト機能付き田植機の導入や、ドローンの導入を検討する経営体が出てきていますが、今後は無人トラクターや無人田植機といった、より精密で効率的な農作業が可能な機械(以下、ロボット農機)が必要になっていくと考えられます。

そこで農業部では、中国四国農政局や市、J Aといった関係機関に呼びかけ、5月25日にI C T 勉強会を開催しました。この勉強会では、株式会社中四国クボタと農業技術センタースマート農業スタッフを講師として、土地利用作物を対象としたI C Tの基礎的な知識の習得を目的としました。

株式会社中四国クボタからは、トラクターなどの農業機械の位置把握に用いられる衛星測位システム(Global Navigation Satellite System 通称GNSS)における種類と特徴の講義があり、農業技術センタースマート農業スタッフからは、簡易な基地局の設置など、実演を交えての説明がありました。

本勉強会は、今後宍道湖西岸地区内でのロボット農機の導入を検討していく上での足がかりになるとともに、ほ場整備から営農関係までの幅広い関係機関が集まる良い機会になったと考えています。

出雲農業部では、今後も宍道湖西岸地区を含む出雲管内でのI C T技術の導入について支援していきたいと考えています。



座学



実演



基地局設置